



### 『外交官の一生』(改版)

石射 猪太郎 著  
(中公文庫) 2007

石射猪太郎(いしい・いたろう、1887-1954)は、戦前、日中戦争を解決するために、当時横暴を極めていた軍部に臆することなく、国際協調外交の立場から正論を説いた、気骨の外交官である。不幸にして、石射は軍部との戦いに敗れ、外務省内部の主流からも外され、閑職に追いやられてしまう。以後の日本は破局の一途をたどっていくことになる。敗戦後、引退した彼が往時を回顧して著したものが、『外交官の一生』である。逆境にめげず、理念を貫くとはどういうことであるかが、ひひしと伝わってくる。失意のうちにつぶられているが、将来の正統外交への希望も伝わってくる。なお、石射は、愛知大学の前身となった東亜同文書院大学第五期の出身者である。



名図開架 319.1:175  
豊図開架 319.1:175



大川 四郎  
法学部

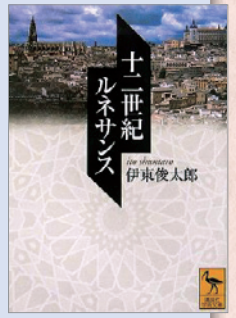


### 『十二世紀ルネサンス』

伊東 俊太郎 著 (講談社学術文庫) 2006

十二世紀ルネサンスという言葉は、1927年にアメリカのチャールズ・ハスキンスが *The Renaissance of the Twelfth Century* を世に送って以来、一般に馴染む名称として次第に定着するようになった。

現代文明を考える場合、アラビア文明を等閑に附すことなど到底できない。ギリシアの学術は八世紀半ばから九世紀にかけて、バグダードを中心にしてそのシリア語訳やギリシア語原典からアラビア語に翻訳された。それによりアラビア文明は中世の時代に最も尖端的な文化の栄華を極めるに至る。このアラビア学術とアラビア語訳のギリシア学術、及びギリシア学術原典は十二世紀に、トレド、カタロニア、バレルモを中心とするシチリア、北イタリアでラテン語に大々的に翻訳され、現代文明の礎を築くことになった。本書はギリシア学術の移転の経緯とアラビア文明のヨーロッパへの深甚な影響を開示してくれる。



名図文庫 230.4:189  
豊図文庫 230.4:189  
(外) 車図開架  
080:Ko19:1780

伊藤 勳  
経済学部

# 教員から学生



### 『価格破壊』

城山 三郎 著 (角川文庫) 1998

これぞ流通エンターテインメント小説!

スーパーマーケット社長の矢口は、業の安売りを実現するために、あの手この手を繰り出す。それに対して、業メーカーは、矢口に業の安売りをさせまいと様々な圧力をかける。矢口と、業メーカーの戦い(とりわけメーカーの矢口へのえげつない嫌ながらせ)が生々しく描かれる。この戦いのモデルは、今から40年前のダイエーと松下電器の戦いとも言われている。

この小説は経営学部の学生はもちろん、他の学部の学生諸君にも是非読んでほしい。1つの商品が作られ、それが我々の手元に届くまでには様々な人の手を経る。そこには、様々な人たちの思惑が絡み合う。経済はきわめて人間的な営みであることが分かる一冊である。



名図開架 913.6:Sh89

太田 幸治  
経営学部



### 『玉函山房輯佚書』

馬国翰 編 (江蘇廣陵古籍刻印社) 1990 / (文海出版社) 1967

私はこの書に出会って、中国古典の道に進もうと思いました。

中国の古い書物には、戦乱や自然災害のために失われたものが多くあります。しかし他の書物に引用されて、原本の一部が残ることもありました。それを佚文といいます。輯佚書は、佚文を引用書から集めた書物です。膨大な量の文献に目を通して佚文を抜き出し、再編修するのは一つの書物についてだけでも大変な作業ですが、この玉函山房輯佚書は、かつて存在していたすべての書物についてやったのですから、想像を絶する大作業だったはずですが、輯佚書のおかげで我々は、失われた書物をまとまって読むことができるだけでなく、現存する書物の過去の姿を知ることができます。

この書物の存在は私に中国古典学の科学的思考の徹底ぶりと、学としての層の厚さ、つまり中国古典学の魅力を感じさせてくれたのでした。



名図中国  
124:M33:1~8  
豊図中国  
#122.08:4:1~16

木島 史雄  
現代中国学部



### 『中村雅楽探偵全集』全5巻

戸板 康二 著 (創元推理文庫) 2007

私は芝居見物が好きです。と言うことで、芝居に縁のあるものを一冊。芝居好きが昂じると名優の芸談や見巧者の評論なども読みたくなるもの。戸板康二は最も有名な演劇評論家のひとりですが、実は江戸川乱歩に誘われて書き始めたという短編推理小説の方も一級品。主人公である歌舞伎界の重鎮・中村雅楽(もちろん架空の人物)が、梨園の内外におこる奇怪な事件を芝居心たっぷり、鮮やかに解決していきます。芝居の世界の楽屋裏を覗くような、ちょっとワクワクした感覚で、気楽に読める短編集です。随所にちりばめられた芝居の世界独特の約束事やキーワードが気になったら、歌舞伎事典や入門書を傍らに一読すれば、楽しさも二倍、三倍増でしょう。



豊図開架  
913.6:  
To26:1~5



塩山 正純  
国際コミュニケーション学部